

大陸指第二千三百六十二號

指 示

陸

軍

大陸命第十四號、第千五百五十四號、第千五百六十六號及第千二百二十一號ニ基ニ在ノ如ク指示ス

「南方軍總司令官、支那派遣軍總司令官、第十方面軍司令官及防衛總司令官ハ別附「燃料並重要物資緊急運送作戰實施ニ關スル陸海軍中央協定」ニ基ニ燃料並重要物資緊急運送作戰ノ實施スルモノトス

二 第十方面軍司令官ハ第二百六獨立飛行隊ヲシテ海上交通保護作戦ニ關スル高級警備府司令長官ヲ指揮ヲ脫セシムルモジトス

指揮轉移ノ時機ヘ一月二十一日零時トス

三、第十方面軍司令官ハ第二項兵力ヲ以テ主トシテ臺灣近海ニ於テ
海軍ノ行フ海上交通保護作戦ニ協力セシムルモノトス
四、大體指第十九百五號訓勅「航空部隊ヲ以テスル海上交通保護作
戦ニ關ヘル陸海軍中央協定」中第二項及訓表第二ハ之ヲ廢止ス

昭和二十年一月三十日

陸軍

大陸指第一回大二號別冊

0622

65

燃料 貨物
重要物資 極急輸送作戦實施に關する陸海軍中央協定

昭和二十年一月二十日
大本營海陸軍部

燃料並
重要物資
緊急運送作戦実施ニ關スル陸海軍中央協定ヲ本冊ノ如ク協定ス

昭和二十年一月二日

軍令部總長

及川古志郎

參謀總長

梅津美治郎

燃料並
重要物資緊急遞送作戦實施ニ關スル陸海軍中央協定
一、作戦目的

戰局ノ推移ニ鑑み陸海軍ハ密接ナニ協同ノ下ニ成ルヘク多量ノ
燃料並ニ戰争進行上必須重要物資緊急遞送ノ遂行ヲ期ス

指揮官及作戦兵力

(1) 海軍（詳細別表第一参照）

指揮官 聯合艦隊司令長官

兵力 聯合艦隊司令長官ノ指揮スル左ノ兵力

海上護衛司令長官ノ指揮（作戦指揮）下兵力

第一護衛艦隊ノ大部

佐世保鎮守府部隊ノ一部

高雄警備府部隊ノ一部
鎮海警備府部隊ノ一部
第八〇二海軍航空隊ノ大部
第一南進艦隊ノ大部
第三造文艦隊ノ一部
臺南警備府部隊ノ一部
上海方面根據地隊ノ一部
第一航艦艦隊ノ一部
第十三航艦艦隊ノ一部
第五造文艦隊ノ一部
第四航艦艦隊第五戰隊ノ一部
第二水雷戰隊
第十一航空戰隊ノ一部

主トシテ後記南號
作戰實施ノ際參加ス

(四) 陸軍（詳細別表第二參照）

陸

軍

指揮官 南方軍總司令官

兵力 飛行第十三戰隊

飛行第二十六戰隊

飛行第二百四戰隊

練成飛行隊及補充飛行隊各一部

指揮官 支那派遣軍總司令官

兵力 支那派遣軍在來兵力ノ一部及左ノ增加兵力

戰團約一戰隊

指揮官 第十方面軍司令官

兵力 第十方面軍在來兵力ノ一部及左ノ增加兵力

戰圖約二戰隊

指揮官 助衛總司令官

兵力 防衛總司令官ノ定ムル航空兵力

三、作戰要領

(1) 海軍

左ノ要領ニ依リ聯合艦隊司令長官指揮ノ下ニ南方動脈輸送路ノ護衛ヲ強化ス

之カ爲臺灣以北ノ護衛ヲ或ル程度忍フモ已ムヲ得サルモノトス
ト海上護衛司令長官ヲシテ爲シ得ル限りノ方策ヲ講シ燃料其ノ他重要船團（船舶）ノ運航繼續ニ努メン

特好機ヲ捉ヘ第一航空艦隊、第十三航空艦隊、第五艦隊、第

十一航空隊除ノ一部ヲ加ヘ護衛竝ニ哨戒ヲ強化シ計畫的
船團（船舶）ノ連航ヲ活潑化ス
本作戰ヲ南號作戰ト呼稱ス

(四) 陸軍

(一) 陸軍ハ爲シ得ル限り聯合艦隊ノ實施スル護衛強化ニ協力ス
(二) 本作戰ニ新ニ參加スル陸軍航空部隊ハ主トシテ船團集合地
及避泊地ノ上空警戒ニ任スルト共ニ航行船團ノ上空直衛ニ
協力ス

警戒ニ任スバキ船團集合地及避泊地左ノ如シ
門司・基隆・高雄・香港・三更・榆林、「ツーラン」・鴨
貢、「サンジヤック」・昭南・對空護衛擔任海面ノ境界左

0629

72

ノ如シ

南方軍支那派遣軍間

北緯二十度線

支那派遣軍第十方面軍間

東經百十八度線

防衛總司令部本土近海

四 指揮關係

陸海軍協同トス

五 通信連絡

- (1) 陸海軍間ノ通信ハ相互ニ所在部隊ヲ通シ連絡スルヲ原則トス
直接無線（有線）連絡ノ必要トスル場合ハ陸海軍指揮官間ニ
於テ之力協定ヲ行ヒ實施スルモノトス
- (2) 陸海軍關係各指揮官ハ密ニ連絡シ其ノ獲得シタル情報ノ内地

軍ニ關係アルセノハ速ニ之ヲ通報スルモノトス

(イ)關係陸軍部隊ヘ爲シ得ル限り第一護衛艦隊電波（晝間八九七五キロサイタル、夜間四七二五キロサイクル）ノ待受ヲ行フモノトス

使用暗號書ハ天暗號及於暗號トシ最寄海軍部隊ヨリ融通ス融通不能ナル向ハ請求ヲ俟テ海軍側ヨリ參謀本部ヲ通シ關係部隊宛送付ス

六油槽船ノ整備及運送燃料ニ關スル事項、一陸海軍省ニ對スル要望事項ヲ含ム

(イ)油槽船ノ整備ハ迅速ノ旨トシ特ニ昭南ニ於ケル整備ヲ促進シ運航率ノ向上ニ努ム

陸軍

(回) 油槽船ノ兵装就中對空兵裝ニ關シテハ特ニ優先増強ヲ圖ルモ

ノトス

④ 燃料運送ノ重點ヲ先ツ現ニ南方内地間ニ就航中ノ油槽船ニ指
向スルモノトシ次テ本一月以降内地發航ノモノニ及フモノト
ス

⑤ 南方地區より搬出運送スヘキ燃料ハ航程揮發油ヲ最優先トシ
船腹ニ餘裕アル場合ハ普通揮發油・重油ノ順序ニ運送スルモノ
トス

一月乃至二月ノ間運送用トシテ南方地區ニ保有スヘキ航空揮
發油ノ標準ヲ約十二万^升トス

⑥ 現集積油槽船ハ逐次一貫輸送ニ轉用スルヲ目途トシ整備スル

モノトス

本作戦ハ急速進足ヲ要スルニ付現地ニ於テ直接作戦ヲ實施スヘ
 ナ陸海軍指揮官ハ兩軍作戦分擔ノ細項ニ關シ直ニ協定スルモノ
 トス

附 則

昭和十九年三月十日 航空部隊
 ノ以テスル海上交通保護作戦ニ關スル陸海
 軍中央協定中第二項及別表第一、第二ヲ廢止ス

陸
軍

0633

日本語訳稿 B-4

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp>

76

0634

別編第

海軍兵力配備概要

陸軍

海軍吳力配備概要		分	兵	力	配備標準記
第一護衛隊	護衛艦艇 約五〇隻	陸	香港	新竹、淡水、馬公 東港、基隆、	內地、昭南間
隊ノ大部	九〇一艇 約二〇〇機	海	戰鬥機配備點	香港	日麗
佐鐵部隊	九〇六艇 約四〇機	空	昭南、西貢、カムラ ンキノン		
高麗部隊	九〇三艇 約二〇〇隻	陸	佐世保附近		
第一艦隊	九〇一艇 約五〇機	海	一 部 參加		
韓國部隊	八〇一艇 約二〇〇隻	空	博多、佐世保、大村 指宿、古仁屋、小樽 宮古、石垣、南大東		
附屬飛行機隊約六機	附屬艦艇	空	鈴鹿、濟州島、旅順 青島、上海、舟山島		
附屬飛行機隊約六機	附屬艦艇	空	中國海配備點 上海		
第二機械隊ノ一部	護衛艦艇 約二〇艘	海	朝鮮南方附近		
海南警備隊ノ一部	護衛艦艇 約二〇艘	空	關東附近		
上海根據地隊ノ一部	護衛艦艇 約二〇隻	空	海南島附近		
第一航空隊ノ一部	護衛艦艇 約七〇機	空	中支、南支那		
第十三航空隊ノ一部	約七〇機	空	高達、新竹等		
第五航空隊、第四航空隊 二水雷艇隊ノ一部	巡洋艦 約二隻 驅逐艦 約五五隻	海	昭南、西貢等	主トシテ南號作 戰時參加	
第十航空隊ノ一部	約四〇〇機	空	九州方面(鹿屋等)		

0636

77

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

別表第二

		陸軍兵力配備概要		陸軍	
區分	兵	力	配備標準	軍	軍
防衛總司令官 隸下（指揮下） 部隊ノ一部	防衛總司令官ノ定ムル戰闘兵力	本土近海 (薩摩、濟州島附近)			
第十方面軍司令 令官隸下部隊 ノ一部	獨立飛行第六十六中隊（突擊）	朝鮮南岸方面 (群山、木浦、海雲臺)			
獨立飛行第四十六中隊（對潛）	獨立飛行第四十七中隊（對潛）	南西諸島及臺灣 (那霸、臺北、臺中)			
獨立飛行第四十八中隊（對潛）	獨立飛行第四十九中隊（對潛）	方 面			
第八飛行團團ノ戰闘二戰隊	獨立飛行第四十一中隊（對潛）	臺灣方面 (臺北、小港)			
獨立飛行第四十二中隊（對潛）	獨立飛行第四十三中隊（對潛）	支那沿岸方面 (上海、油頭、香港)			
第貳航艦軍ノ戰闘一戰隊	飛行第十三戰隊（戰闘）	東南支那沿岸 (廣東又ヘ香港)			
飛行第二十六戰隊（戰闘）	飛行第二百四戰隊（戰闘）	南方、印度支那及馬 來方面			
機成飛行隊及 各一部（戰闘）	機成飛行隊及 各一部（戰闘）	二月上旬配備 (五里、「ツーラン」) （四貢、昭南）			
備考	記録地八戰況ニ依リ變更アルヘシ				

日本標準規格 B-4

大陸指第二千三百六十三號

指 示

大陸命第千二百二十八號ニ基キ左ノ如ク指示ス
一、中南部支那沿岸方面作戦ニ關スル陸海軍中央協定別冊ノ如シ
二、支那派遣軍總司令官ハ主トシテ重慶勢力ノ衰亡ヲ促進シ且在支
敵航空勢力ノ活動ヲ封殺スル爲支那奥地ニ對シ多數ノ小部隊ヲ
以テスル組織的長期ニ亘ル挺進奇襲作戦ヲ實施スルモノトス
三、支那派遣軍總司令官ハ支那及同沿岸海域ニ於ケル船舶輸送ヲ擔
任シ之ニ關シ第二船舶輸送隊長ヲ區處スルモノトス
右ノ場合大本營ノ統轄管掌スル船舶輸送ヲ妨ゲサルモノトス
四、支那派遣軍總司令官ハ其ノ作戦地域内ニ在ル其ノ隸下指揮下以

外ノ部隊ニ對スル兵站業務ヲ擔任スルト共ニ所要ニ應シ關東軍、
南方軍及第十方面軍ノ兵站業務ヲ援助スルモノトス
五關東軍總司令官、南方軍總司令官及第十方面軍司令官ハ所要ニ
應シ支那派遣軍ノ兵站業務ヲ援助スルモノトス

昭和二十年一月二十二日

別冊

陸軍

中南部、支那沿岸方面作戦
ニ關スル陸海軍中央協定 大昭和二十年一月二十二日
日本營陸軍部

本協定ハ中南部支那沿岸方面ニ關スル陸海軍協同ノ大綱ヲ示スモ
ノニシテ細部ハ支那派遣軍總司令官支那方面艦隊司令長官相互ニ
協議スルモノトス

第一 作戦目的

一、支那大陸ニ進攻スル主敵米軍ヲ擊破シテ其ノ企圖ヲ破壊スルト
共ニ大陸ニ於ケル要域ヲ確保スルニ在リ

第二 作戦指導大綱

二、東南支那
支那沿岸方面ノ戰備ヲ速急ニ強化シ敵米軍ノ進攻ニ方リテ
ハ適時所要ノ兵力ヲ集中シテ之ヲ擊破シ極力其ノ企圖ヲ破壊ス

戦力指向ノ重點ハ廣東周邊地區トス

三、本年初夏ノ候ヲ目途トシテ楊子江下流要域特ニ上海周邊地區ノ
戰備ヲ強化シ敵米軍ノ進攻ニ方リテハ爲シ得ル限りノ戰力ヲ指
向シテ決戰ヲ指導シ敵ヲ擊滅ス

四、海南島方面ニ於テハ進攻スル敵ニ對シ概ね所在陸海軍部隊ヲ以
テ極力同島主要港灣、飛行場等ヲ確保シ成ルヘク永ク敵ノ利用
ヲ封殺ス

五、南方要域ト日滿支トノ交通ヲ極力確保スルト共ニ兵力機動等ノ
爲小型船ニ依ル沿岸航路ヲ設定ス又福建沿岸、臺灣間ニ海上連
絡ヲ設定ス

概ネ左ノ如ク陸軍兵力ノ海上機動ヲ準備ス

上海地區

步兵四大隊基幹

廣東地區

步兵四大隊基幹

別ニ南方軍及第十方面軍ハ左ノ如ク兵力ヲ準備ス

北部佛印地區

步兵三大隊基幹

臺灣

步兵三大隊基幹

六航空作戦ニ關シテハ所要ニ應シ別ニ協定ス

第三 防衛擔任及指揮關係

防衛擔任

海上防衛ハ海軍、陸上防衛ハ陸軍之ニ任スルヲ本則トス

但シ島嶼ノ防衛擔任ニ關シテハ支那派遣軍總司令官支那方面艦

隊司令官相互通議ス

陸
軍

83
0643

昭和十六年九月一日 「上海租界警備分擔ニ關スル陸海軍中央協定」 及昭和十六年十一月六日 「香港作戦ニ關スル陸海軍中央協定」 中警備指任ノ項ハ之ヲ廢棄ス

八 指揮關係

同一方面ニ位置シ又ハ同一目的ノ爲作戦スル陸海軍部隊ハ支那派遣軍總司令官、支那方面艦隊司令長官相互協議シ其ノ指揮關係ヲ律ス

大陸指第二千三百六十六號

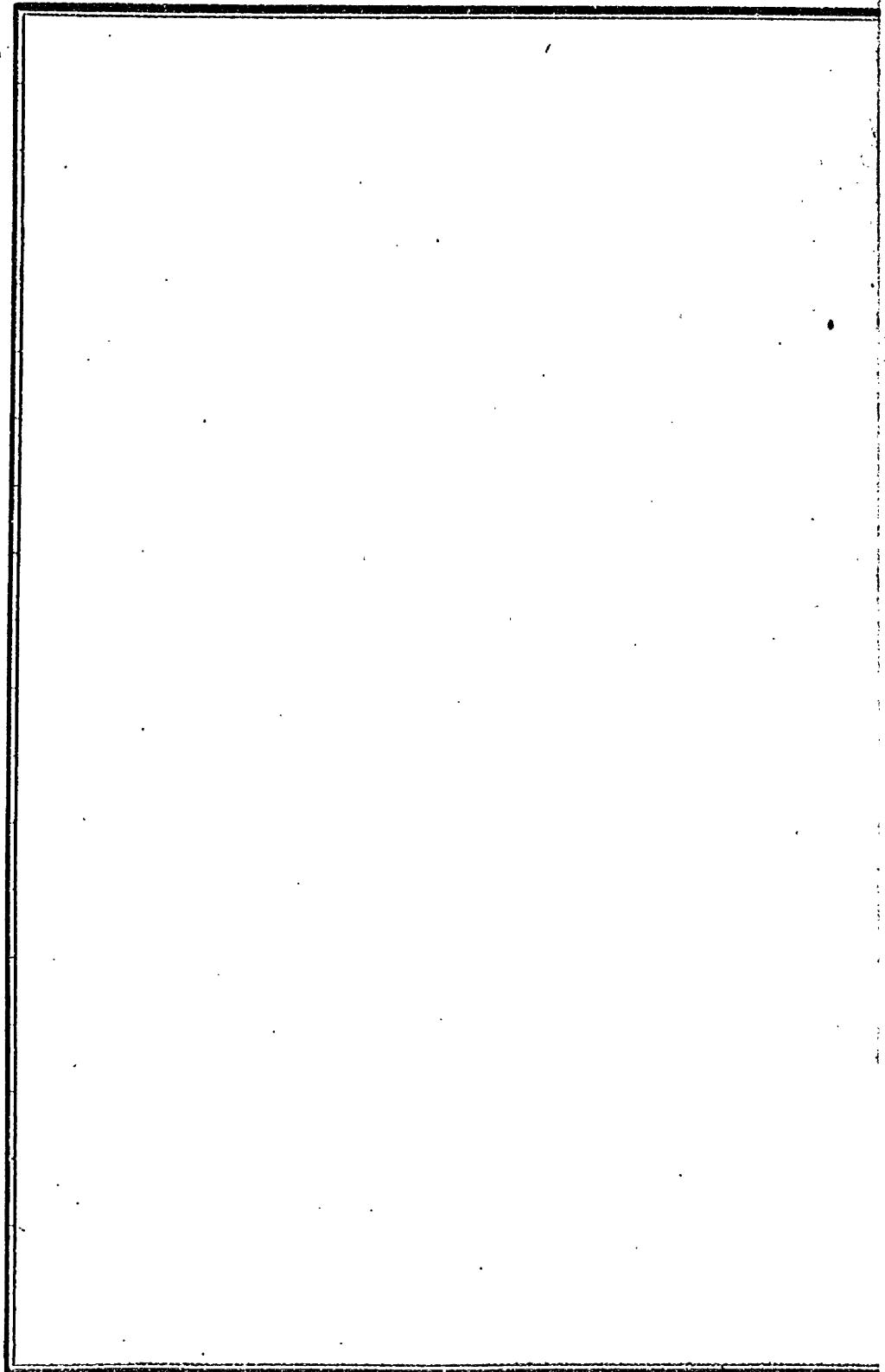
指 示

大陸命第千二百三十二號ニ基キ左ノ如ク指示ス
支那派遣軍總司令官ハ第六軍司令部ヲ楊子江下流要域方面ノ作
戰ニ充當スルモノトス

昭和二十年一月二十五日

陸 軍

0645



日本標準規格 B-4

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

大陸指第二千三百六十八號

指 示

大陸命第二百三十四號ニ基キ左ノ如ク指示ス

一、防衛總司令官ハ第二百六獨立飛行隊ヲ以テ主トシテ朝鮮海峽及
其ノ近海ニ於ケル海上護衛司令長官ノ行フ海上交通保護作戦ニ
協力スルモノトス

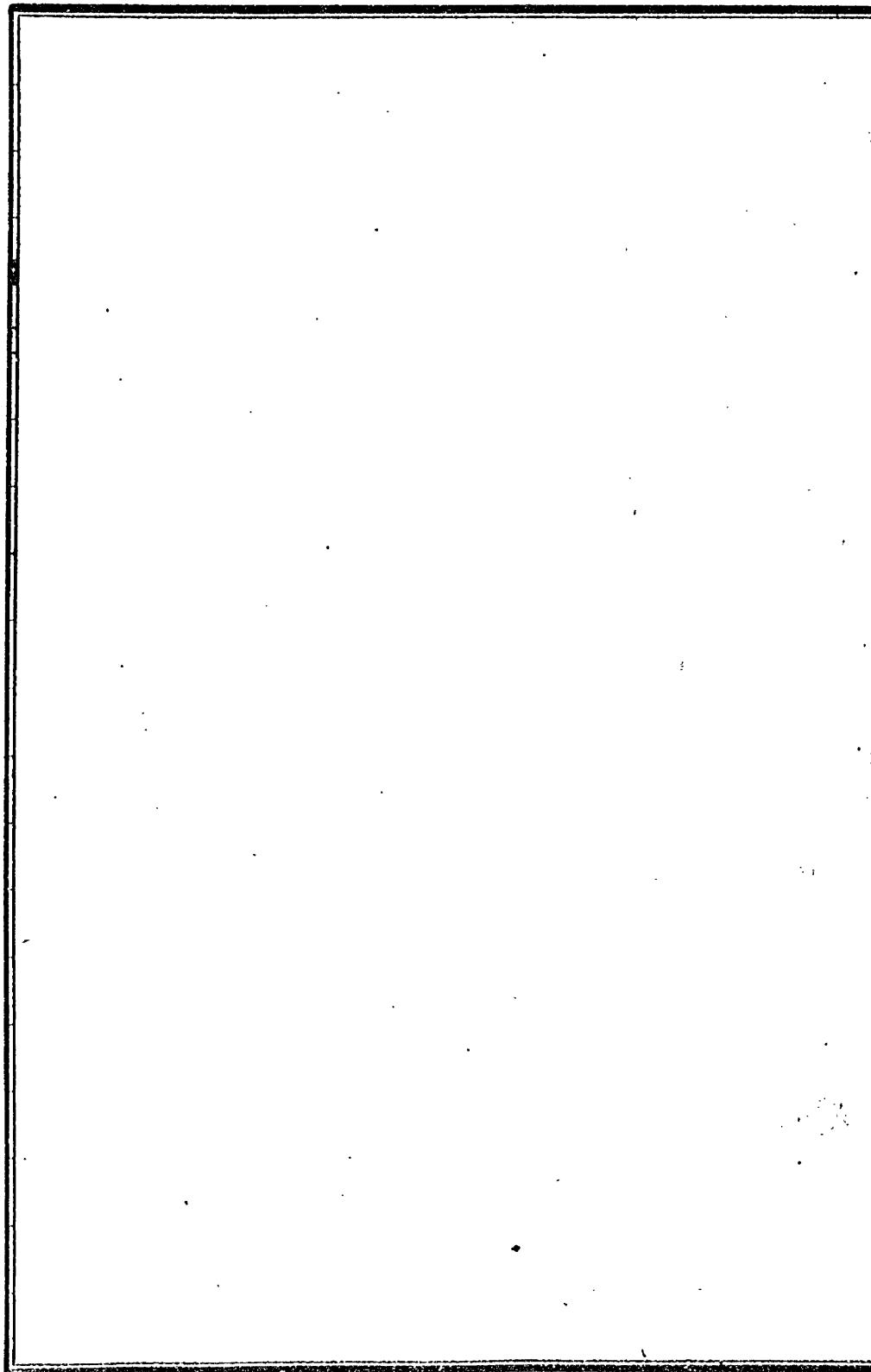
二、關東軍總司令官ハ獨立飛行第六十六中隊中現在滿洲ニ在ル部隊
ヲ速ニ朝鮮ニ到ラシムルモノトス

三、第二百六獨立飛行隊本部ノ臺灣、九州間ノ空輸ハ第十方面軍司
令官之ヲ擔任スルモノトス

昭和二十年一月二十七日

陸 軍

0647



日本標準規格 B-4

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

大陸指第二千三百六十九號

陸軍

指令示

大陸命第千八十一號、第千百六十六號及第千二百三十五號ニ基キ
左ノ如ク指示ス

一、防衛總司令官ハ左ノ部隊ヲ其ノ機種改變間依然陸軍航空總監ノ
指揮下ニ在ラシムルモノトス

第七飛行團司令部

飛行第十四戰隊（重爆）

飛行第六十二戰隊（重爆）

二、第十方面軍司令官ハ飛行第二十四戰隊ヲ香港ニ派遣シ支那派遣
軍總司令官ノ指揮下ニ入ラシムルモノトス

0649

87

指揮轉移ノ時機ハ香港飛行場到著ノ時トス
右戦隊ノ地上勵務員及器材ノ臺灣、香港間ノ空輸ハ第十方面軍
司令官之ヲ擔任スルモノトス

三、支那派遣軍總司令官ハ飛行第二十四戦隊ヲ香港又ハ廣東附近ニ
位置セシメ大陸指第二千三百六十二號ニ據ル任務ニ服セシムル
モノトス

四、南方軍總司令官ノ大陸命第千二百三十五號ニ據リ新所屬指揮官
ノ隸下ニ入ラシムヘキ人員ハ概モ現在内地及臺灣ニ在ル人員ト

ス

昭和二十年一月二十七日

大陸指第二千三百七十號

陸軍

指 示

大陸命第千八十一號及第千百六十六號ニ基キ左ノ如ク指示ス
テ飛行第二十戰隊ハ戰力恢復後比島ニ派遣スルコトナク依然第十

方面軍司令官ノ指揮下ニ在ラシム

二、第一航空軍司令官ハ飛行第二十二戰隊ヲ朝鮮ニ到ラシメ該地ニ
於テ戰力恢復ヲ實施セシムルモノトス

三、南方軍總司令官ハ飛行第三十八戰隊ヲ内地ニ到ラシメ原所屬ニ

復歸セシムルモノトス

指揮轉移ノ時機ハ内地飛行場到着ノ時トス

四、前項部隊ノ歸還兵力ノ基準左ノ如シ

0651

89

1. 戰隊本部ノ最小限ノ基幹人員ヘ五名基準一トス
2. 現保管飛行機及器材ハ全部殘置セシムルモノトス
3. 前項人員ノ空輸ハ左ニ依ルモノトス

現在地ヨリ臺灣迄 南方軍總司令官擔任

臺灣ヨリ九州迄 第十方面司令官擔任

昭和二十年一月二十七日

大陸指第二千三百七十三號

0652

指 示

大陸命第千二百三十六號ニ基キ兵站交通ニ關シ左ノ如ク指示ス
一、南方軍兵站交通運用上準據スヘキ要綱左ノ如シ

(1) 南北交通連絡ノ現況ニ鑑ミ中央ヨリ物的戰力ノ補給ヲ胸算ス
ルコトナク自給自戰ニ徹ス

(2) 戰力策源地トシテ南方中核地域ニ於ケル兵站交通機能ヲ強化

ス

(3) 南方全域ニ於ケル兵力配置ノ集約ニ伴ヒ特ニ物的戰力ノ集結
ヲ之ニ即應セシムルト共ニ之カ力損耗防止ニ努ム
又緊要通信網ノ整備確保ニ努ム

(4) 極力重要國防物資ノ運送ニ努ム

但シ運送困難ナル場合之力急速ナル現地戰力化フ圖ル

(5) 軍政諸施策ハ作戰卽應ニ徹底スルト共ニ民心ノ把握ニ努ム
二、南方軍總司令官、支那派遣軍總司令官及第十方面軍司令官ハ相
互ニ航空機及小型船艇ニ依ル交通確保ヲ圖ルト共ニ南方、支那
大陸相互間ニ内陸連絡路ノ設定ニ努ムモノトス

三、南方軍總司令官ハ其ノ作戰地域ニ於ケル其ノ隸下及指揮下以外
ノ陸軍部隊ノ兵站業務ヲ擔任スルト共ニ所要ニ應シ支那派遣軍
ノ兵站業務ヲ援助スルモノトス

四、支那派遣軍總司令官及第十方面軍司令官ハ所要ニ應シ南方軍ノ
兵站業務ヲ援助スルモノトス

昭和二十年一月二十七日

大陸指第二千三百七十四號

陸軍

指 示

大陸命第千二百十三號ニ基キ左ノ如ク指示ス
防衛總司令官ハ左記ニ據リ緊急軍需品ノ空輸ヲ擔任スルモノトス

左 記

- 一、空輸品　軍需品約三十屯トン品目、數量別紙ノ如シ
- 二、空輸貿易　斯澤、硫黃島間
- 三、空輸時機　成ルヘタ速ニ

昭和二十年一月三十日

0655

日本標準規格 B-4

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp>

0656

93

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

別紙

指十一

輸送品目及數量表

區分	品名	四	重量	摘要
火	市形黃色菜	一〇〇〇〇		
具	一式突火管	一〇〇〇〇		
火	金雷	一〇〇〇〇		
兵	野戰發明機之部品	四〇	二箱(騰兵第三八號、今)	
糧	食油	二五〇〇		
資	乾燥鹽	一〇		
現地自活	野菜種子	二五〇		
火	農藥	一〇〇〇		
通信器材	藥包	一一〇		
兵	鐵鏈	一〇〇〇		
火	氣管	一〇〇〇		
具	火炮照准具	一〇〇〇		
資	九九破甲爆雷	九〇〇		
對戰材	九三式電活機	一〇〇		
車	同小波復旗	六〇〇		
通信用材	酸素	二五〇		
修理用材	自動貨車部品	二〇〇		
現地自活資材	霧器	六〇〇		
給水用資材	イスカ西藻機部品	一五〇		
彈藥	レフ機部品	一〇〇		
手入材料	三式手投爆雷	二七〇		
衛生材料	スビナル油木綿等	一〇〇		
合計	四袋	七五		
備考	一本表、四五四及數量表ハ支文更スルノートアリ	野戰衛生長官死 騰医下等第一號、分		

0657

大國指第二千三百七十五號

指 示

大陸命第千二百二十八號及第千二百三十六號ニ基キ左ノ如ク指示
ス

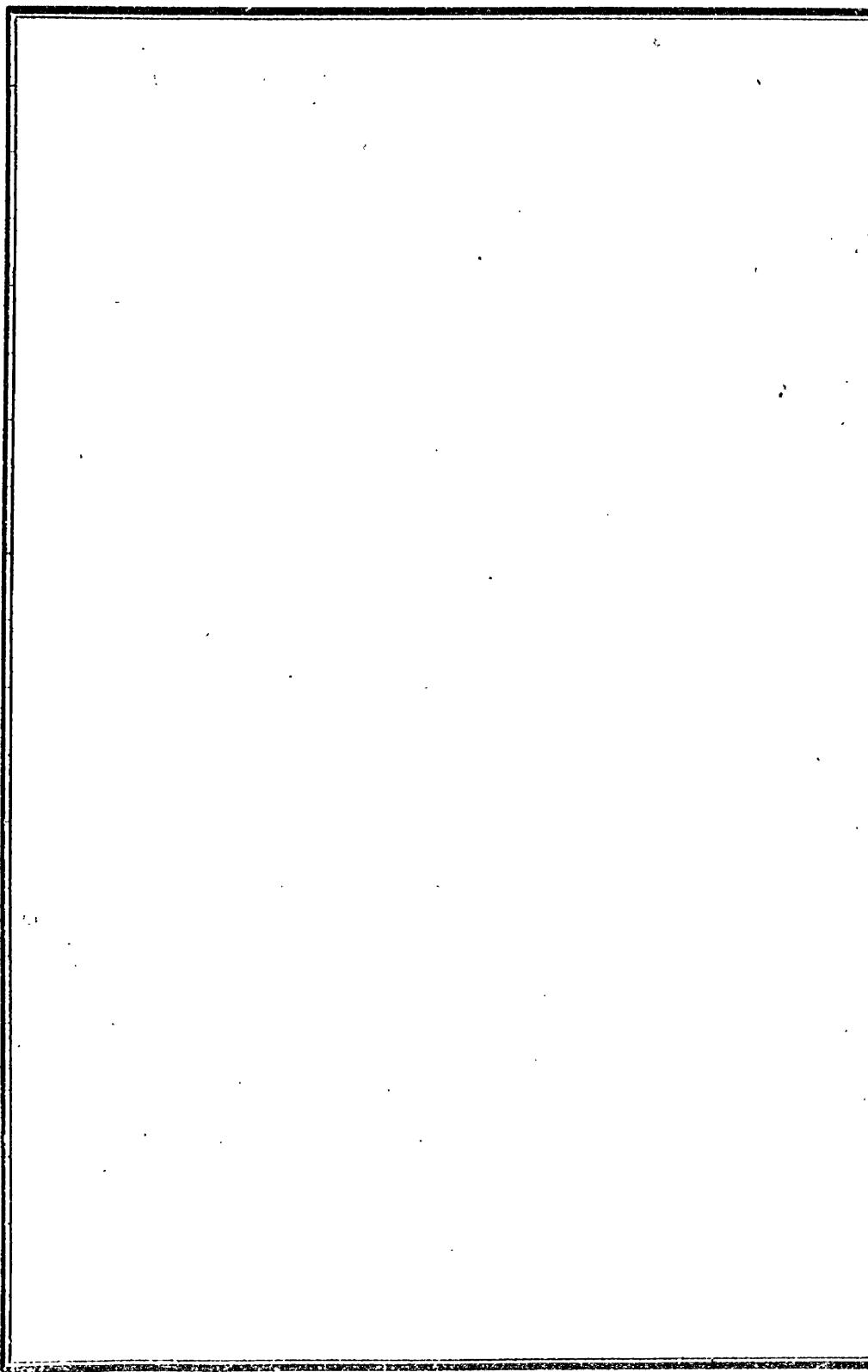
一、二月一日以降本土ヨリ南方地域ニ至ル骨幹航空路ヲ附圖ノ如ク
變更スルト共ニ新ニ支那東南沿岸及支那内陸縱貫航空路ヲ新設
シ之カ強化フ圖ル

二、支那派遣軍總司令官、南方軍總司令官及兵站總監ハ夫々別冊「本
土—南方骨幹航空路強化要綱」ニ準據シ航空路ヲ設定強化スル
モノトス

・昭和二十年一月三十一日

陸 軍

0659



日本標準規格 B-4

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

95

0660

大陸指第一千三百七十五號別冊

本土 - 南方骨幹航空路強化要綱

昭和二十年一月三十一
大本營陸軍部

陸軍

0661

日本標準規格 B-4

本土 — 南方骨幹航空路強化要綱

方針

本土 — 中支 — 臺灣 — 南支 — 佛印航空路の骨幹航空路トシテ迅速ニ
強化スルト共ニ南鮮、中支那沿岸及支那内陸ヲ縱貫スル航空路ヲ新
ニ設定シ本土及南方ヲ結フ西航空路ヲ急速ニ整備ス

要領

一、第一期 — 概メ二月末日迄

- ノ 北九州及南鮮航空路基地ヲ強化新設ス
- 又臺灣ニ於テハ臺灣 — 比島向航空路ヲ必要最小限ニ保續スル
- ニ止メ餘剰兵力、器材ヲ中支那沿岸及佛印向航空路強化ニ轉
換ス右ノ實行ハ兵站總監ノ擔任トス

陸軍

2. 速力ニ東南支沿岸ニ於ケル航空路基地ヲ新設シ保安、氣象、整備、補給能力ノ強化ヲ圖ル

止ムヲ得サル場合ニ於テモ保安通信機關ノ配置ヲ完了ス

海南島ニ於ケル航空路勸務ヲ強化ス
之力實行ハ支那派遣軍ノ擔任トス

但シ三亞ニ於ケル保安勸務ハ南方軍ノ擔任トス

3. 佛印ニ於ケル航空路勸務ヲ強化ス

廣東—北部佛印—泰ノ航空路ヲ新設ス

之力實行ハ南方軍ノ擔任トス

三、第二期（概末三月末迄）

1. 東南支沿岸、佛印ニ於ケル航空路勸務ノ線度ノ向上ニ勉メ特

ニ敵ノ妨害下ニ於ケル空襲破機動ヲ可能ナラシム

2 支那内陸ヲ縦貫スル航空路ヲ設定シ期末迄ニ之ヲ概成ス

設定スヘキ航路左ノ如シ

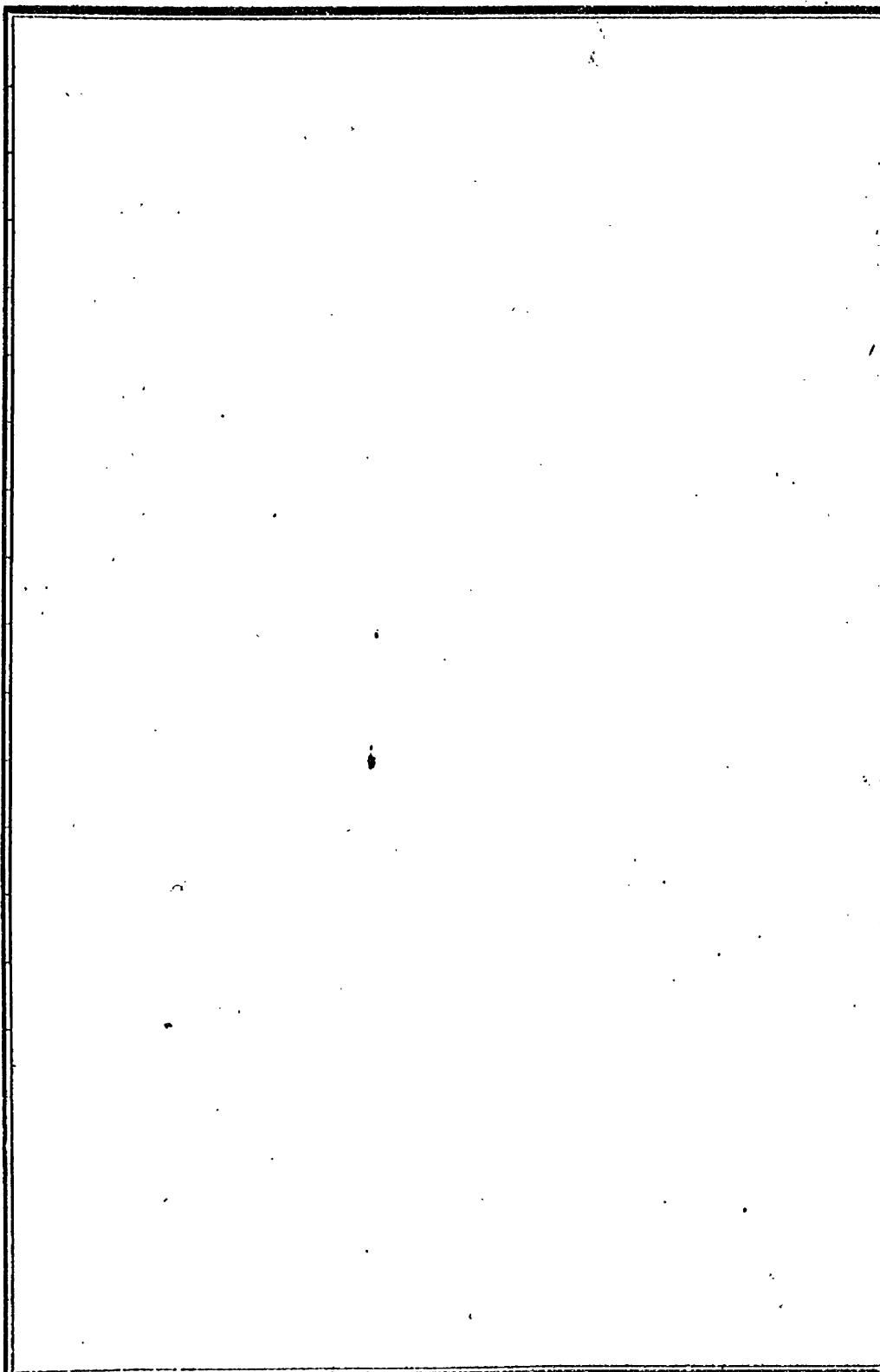
(1) 南京—南昌—廣東

(2) 狀況之ヲ許セハ漢口—衡州—桂林—南寧—河内
之力實行ハ支那派遣軍ノ擔任トス

三、基地新設又ハ強化要領別紙ノ如シ

陸軍

0665



日本標準規格 B-4

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

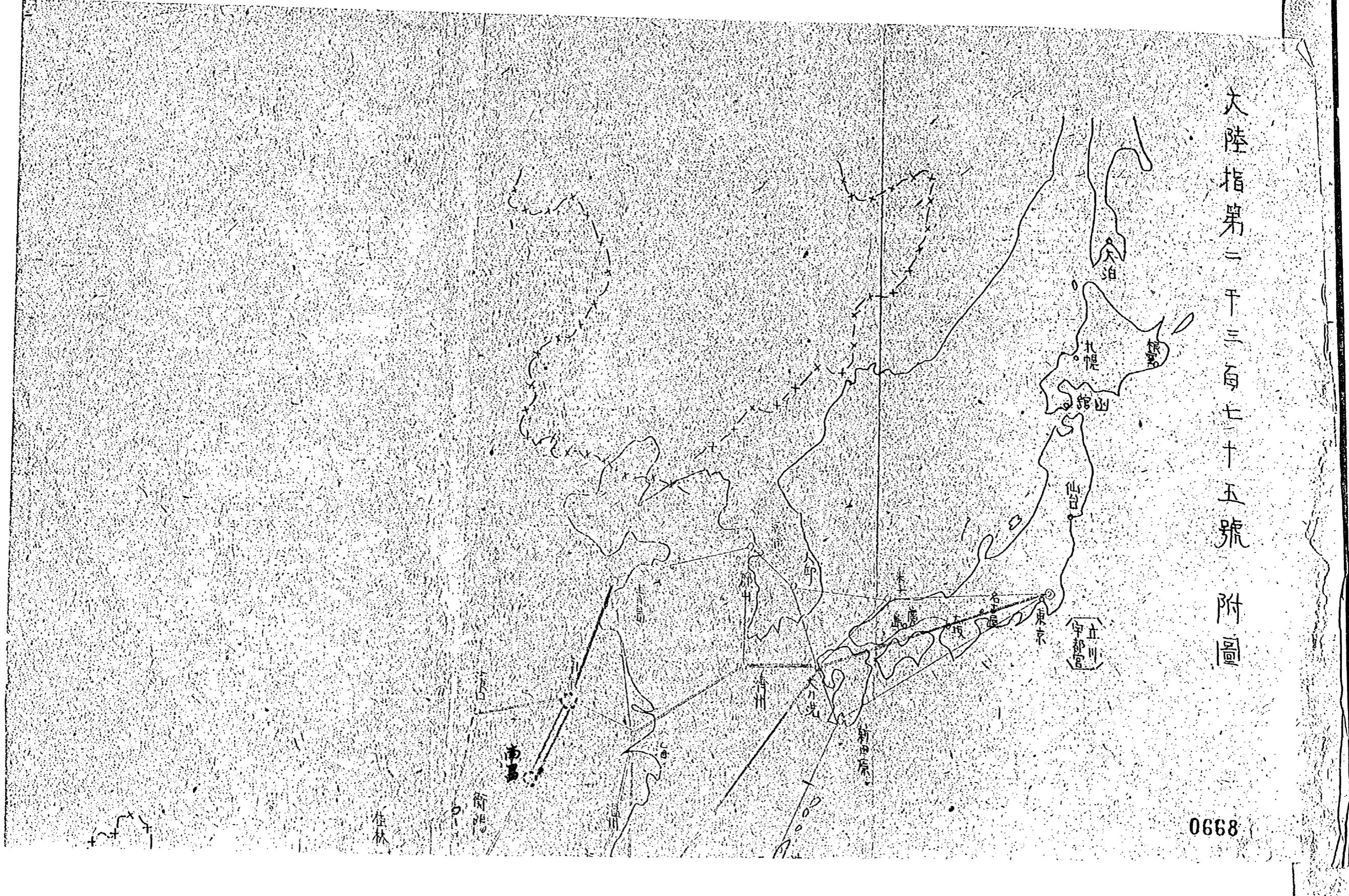
0666

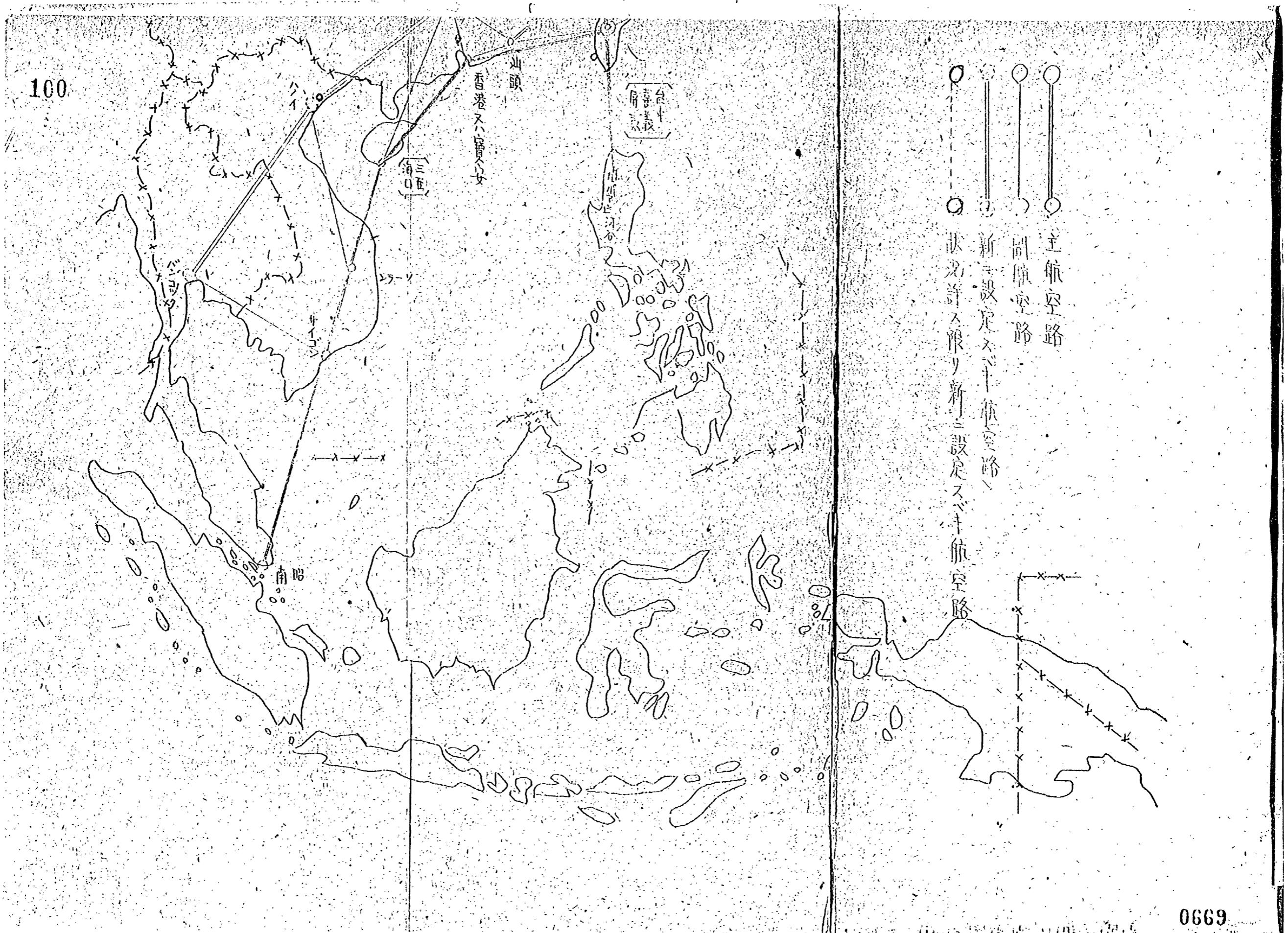
99

別
紙

大陸指第三千三百七十五號附圖

0668





101

0670

大陸指第二千三百七十六號

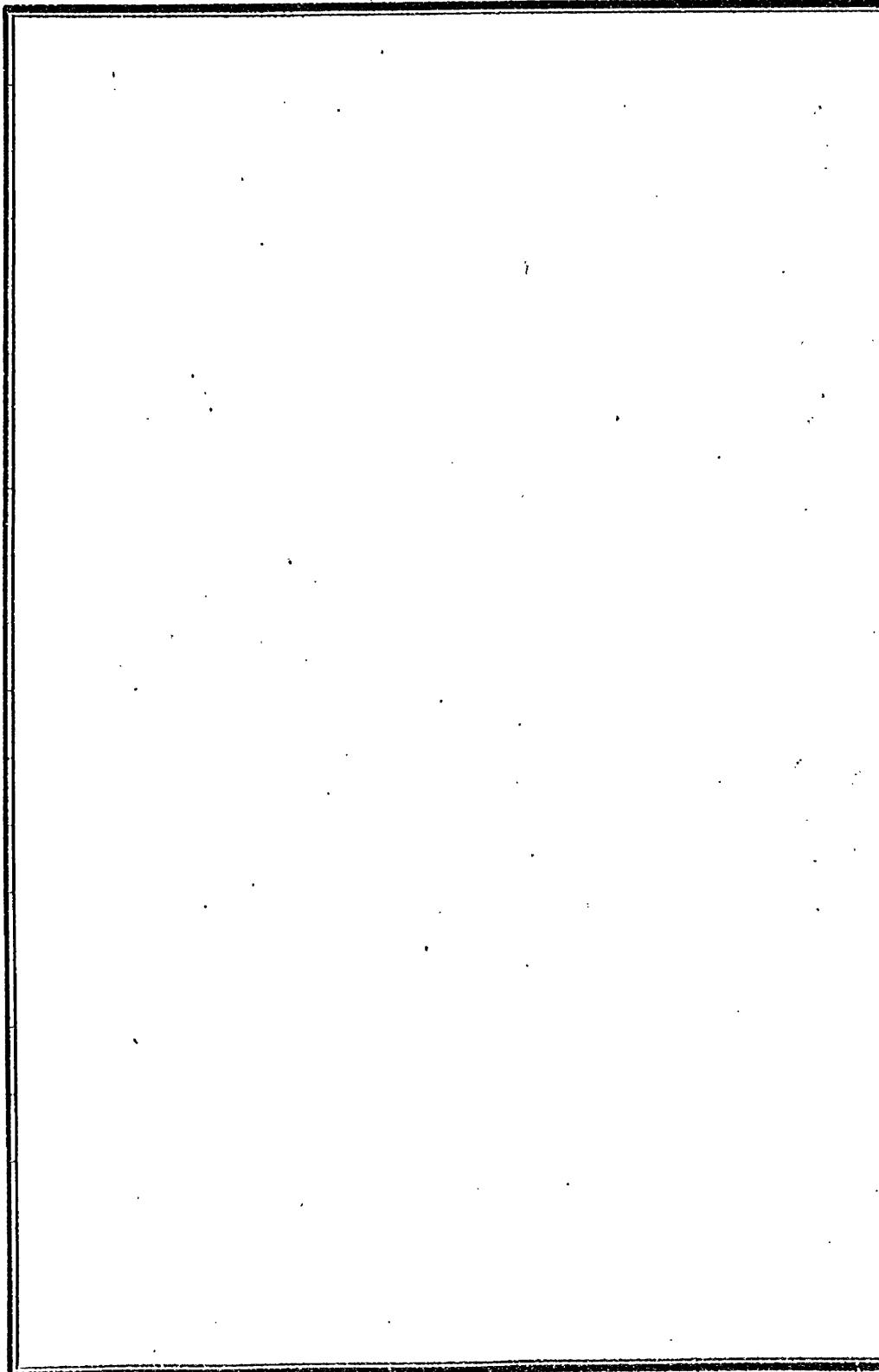
指 示

大陸命第千二百四十一號ニ基キ左ノ如ク指示ス
支那派遣軍總司令官ハ第八野戰航空修理廠ヲ主トシ
テ山東地區ニ配置スルモノトス

昭和二十年二月三日

陸 軍

0671



日本標準規格 B-4

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

大陸指第二千三百七十九號

指 示

大陸命第千二百四十二號ニ基キ左ノ如ク指示ス

一、臺灣及南西諸島方面作戦ニ關スル陸海軍中央協定別冊ノ如シ

航空作戦ニ關スル陸海軍協力要領ニ關シテハ別ニ指示ス

二、第十方面軍司令官ハ情報ノ速達ニ關シ密ニ防衛總司令官、支那
派遣軍總司令官及關係海軍指揮官ト協力スルモノトス

三、第十方面軍司令官ハ所要ニ應シ支那派遣軍及南方軍ノ兵站ヲ援

助ス

四、第十方面軍司令官ヘ其ノ作戦地域内ニ在ル隸下、指揮下以外ノ
部隊ノ警戒、整備、補給、宿營、給養等ヲ擔任スルモノトシ細

陸 軍

103

0673

部ニ關シテハ關係軍司令官ト協議スルモノトス

昭和二十年二月三日

日本標準規格 B-4

國立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

104

0674

大陸指第一千三百七十九號別冊

陸軍

臺灣及南西諸島方面作戰ニ關スル陸海軍中央協定

昭和二十年二月三日
大本營海陸軍軍部

0675

日本標準規格 B-4

臺灣及南西諸島方面及作戰ニ關スル陸海軍中央協定

一、臺灣及南西諸島方面ニ於ケル陸上防衛ハ陸軍、海上防衛ハ海軍擔任スルヲ本則トス

二、第十方面軍司令官ハ陸上作戰ニ關シ臺灣及南西諸島方面所在海

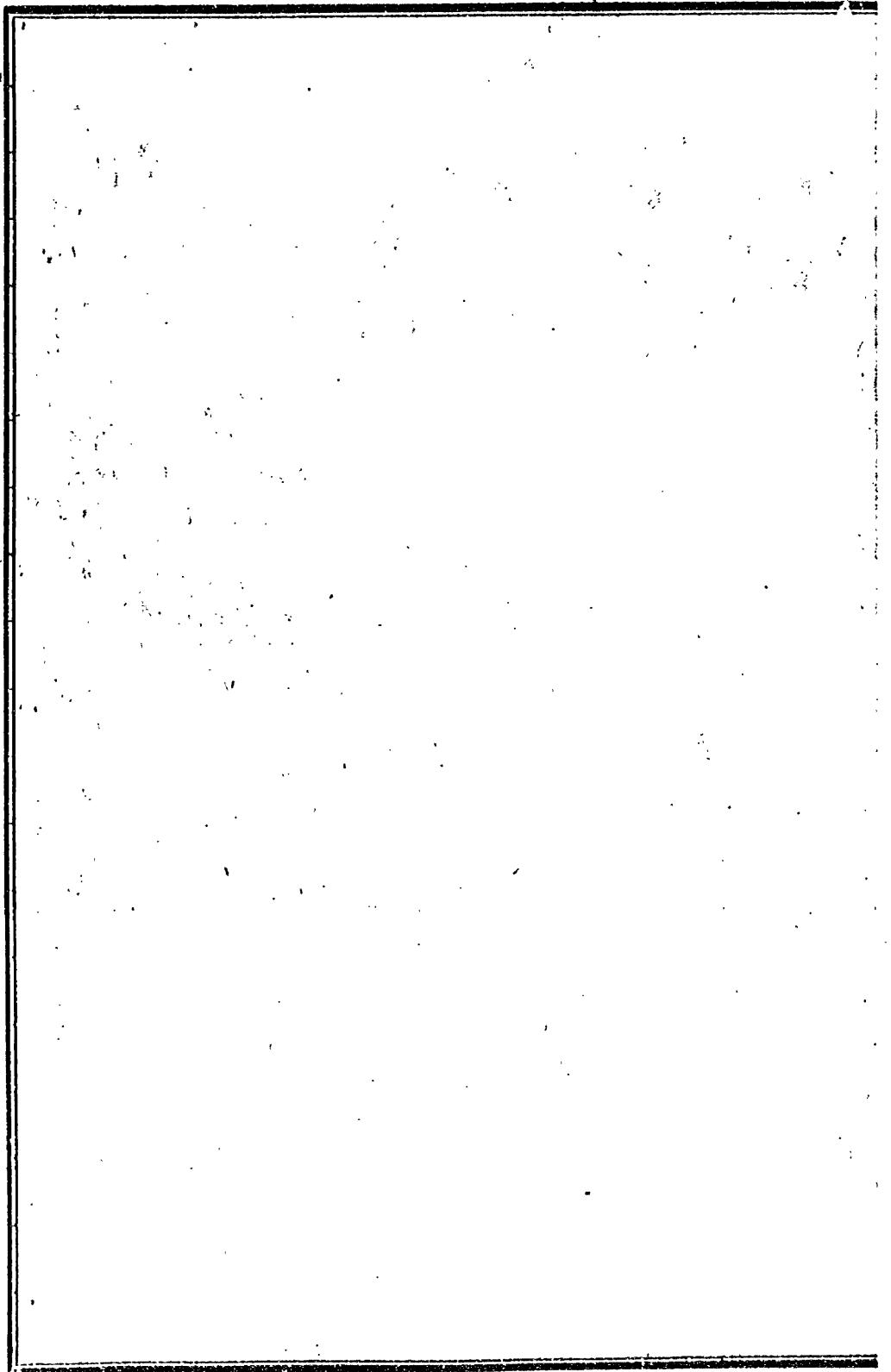
軍部隊中所要ノ兵力ヲ指揮ス

右兵力ニ關シテハ第十方面軍司令官、佐世保鎮守府司令長官、

高雄警備府司令長官協定ス

陸軍

0677



日本標準規格 B-4

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>